

河川と親しむ活動の実態評価について 中国地方の河川

呉高専 正員 市坪 誠 広島国際大学 正員 長町三生 香川大学 正員 白木 渡
 呉大学 正員 今田寛典 呉高専 学員 丸岡弘晃

1. はじめに

近年、人々の周囲環境に対する関心の高まりから、地域において安らぎ空間の創出が求められ、このことは水辺空間においても例外ではない。なかでも河川空間は、利水および治水機能だけでなく、人々にうるおいや快適さを与える空間であり、多様な生物の生息・生育環境としても捉えられる。地域の風土や文化を形成する重要な共有資産として、個性を活かした川づくりが求められている。

そこで本研究では、中国地方の河川における水辺活動の実態評価を目的として、河川でよく見かける活動、ふさわしい活動の把握を行った。これより、地域の人々が求める河川のあり方を理解し、地域性を踏まえた整備指針確立の基礎的資料を得るものである。

2. 研究概要

中国地方5県における一級河川の21ヶ所において、34の活動項目を列挙して“この場所でもよく見かける活動”、“ふさわしいと思われる活動”のアンケート調査を行った(表-1)。被験者は、それぞれの河川において地域活動を行なっている人々であり、各河川ごとに独立している。

この結果をもとに、それぞれの河川において多変量解析(因子分析・プロマックス回転)を行ない、各河川活動を2~8因子に要約することで、河川活動の地域性の把握を行なった。

3. 結果及び考察

3.1 河川活動の概要について

中国地方の河川において、“よく見かける活動”は、「水遊び」、「水生生物観察」、「魚・虫取り」が数多く出現した。これより、中国地方の河川は概して親水性があり、地域の人々にとって生物の生息の場として認識されていることが理解できた。

“ふさわしいと思われる活動”は、「ハイキング」、「ぶらぶら歩く」、「ジョギング」、「花見」、「植物観察」が多く出現した。このことから、地域の人々は河川空間に対し概してスポーツやレジャーの場としての向上を要求していることが把握された。

以上の結果から、河川における活動実態と要求の概要が把握され、地域性を踏まえた河川整備の指針決定において一つの方向性が理解できた。



図-1 太田川水系・放水路



図-2 太田川水系・古川

表-1 調査項目一覧

活動の区分	この場所でもよく見かける活動	この場所にふさわしいと思われる活動
アウトドア レジャー活 動・散歩・ 休憩	バーベキュー・キャンプ・ファイヤー ハイキング・ピクニック ぶらぶら歩く・犬の散歩 景色眺める、たたずむ、休む 読書、会話	
水面・水際 スポーツ・ 水面利用・ 活動	つり 水泳 ボート カヌー ウインドサーフィン ジェットスキー 水上スキー 川くだり・ラフティング 遊覧船・屋形船・水上バス 沢登り	
高水敷・堤 防スポー ツ	球技 サイクリング ジョギング、トレーニング 乗馬 スキー、スケート、そり 土手すべり ラジコン・風揚げ モトクロス オフロード車	
イベント・ 文化活動	祭り・イベント 楽器の演奏 花見・紅葉狩りなど	
自然体験・ 自然観賞 活動	水遊び 水生生物観察 バードウォッチング 植物観察 魚・虫取り 写真撮影	
その他	その他	

Key Words : 河川空間, 住民参加, 河川活動, 地域性, 整備指針

連絡先 : 〒737-8506 広島県呉市阿賀南 2-2-11 TEL : (0823) 73-8486

表 - 2 古川・よく見かける活動

活動項目	因子			
	1	2	3	4
植物観察	0.81344	0.13461	0.14058	0.10118
バードウォッチング	0.79429	0.05899	0.01278	0.19235
水生生物観察	0.78829	0.06298	0.09151	0.03298
ぶらぶら歩く、犬の散歩	0.7059	-0.098	-0.1684	-0.1453
写真撮影	0.49738	0.43808	0.2157	0.23195
楽器の演奏	0.11798	0.79303	0.08806	-0.0847
魚・虫取り	0.5531	-0.6616	-0.0768	0.02368
ジョギング、トレーニング	-0.3498	-0.6447	0.3301	0.22016
他 環境学習	0.40674	-0.5008	0.27998	-0.4508
カヌー	-0.0316	-0.1841	0.87614	-0.1037
つり	0.06406	0.45161	0.71507	-0.1397
土手すべり	0.11427	-0.3199	0.50782	0.47069
バーベキュー	-0.0128	-0.0321	-0.0019	0.76069
読書、会話	0.25807	-0.1826	-0.3234	0.60231
寄与率	30.65%	17.63%	11.49%	7.62%
累積寄与率	30.65%	48.28%	59.77%	67.39%

表 - 3 太田川放水路・よく見かける活動

活動項目	因子		
	1	2	3
バーベキュー	0.96126	-0.0885	-0.0189
ジョギング、トレーニング	0.76349	0.38216	-0.0239
サイクリング	0.71776	-0.1704	-0.346
つり	0.52257	-0.0911	0.37358
祭り・イベント	0.50376	0.06782	0.33109
ボート	-0.4762	0.72707	-0.2742
景色眺める、たたずむ、休む	0.34387	0.66192	-0.2807
カヌー	-0.1151	0.60515	-0.0213
魚・虫取り	-0.0135	-0.6043	-0.1965
ぶらぶら歩く、犬の散歩	0.33349	0.54989	0.43689
ラジコン・凧揚げ	0.14509	0.02513	0.86586
植物観察	-0.3138	-0.0349	0.80259
寄与率	30.22%	20.63%	12.25%
累積寄与率	30.22%	50.85%	63.10%

表 - 4 古川・ふさわしい活動

活動項目	因子		
	1	2	3
ジョギング、トレーニング	0.92797	-0.1974	-0.071
水遊び	0.75864	0.19947	0.01395
サイクリング	0.6696	0.11511	0.01166
祭り・イベント	0.53478	0.26234	0.23189
景色眺める、たたずむ、休む	0.01735	0.82087	-0.0533
写真撮影	0.07199	0.7991	0.04915
植物観察	0.25097	0.79549	0.0118
ぶらぶら歩く、犬の散歩	0.23804	0.62189	-0.1406
水生生物観察	0.45169	0.56833	-0.0431
バーベキュー	-0.1975	0.42363	0.0665
花見・紅葉狩りなど	-0.0167	0.03852	0.90636
カヌー	0.31136	-0.2813	0.7879
つり	-0.3843	0.32282	0.72901
土手すべり	0.49747	0.0124	0.50353
寄与率	39.88%	15.00%	9.70%
累積寄与率	39.88%	54.88%	64.58%

表 - 5 太田川放水路・ふさわしい活動

活動項目	因子		
	1	2	3
ラジコン・凧揚げ	0.9153	0.28331	-0.0083
カヌー	-0.8392	0.16665	-0.1013
川くだり・ラフティング	-0.8298	0.12999	0.04835
ハイキング・ピクニック	0.48009	0.17457	0.46256
他1 花火大会	0.47429	0.46649	-0.3444
景色眺める、たたずむ	0.13693	0.92121	0.24694
遊覧船・屋形船・水上	0.21391	-0.7481	0.10487
花見・紅葉狩りなど	-0.0499	-0.6015	0.16093
写真撮影	0.45192	-0.4698	0.20314
植物観察	-0.0204	-0.0408	0.91247
水生生物観察	0.16845	-0.2531	0.78141
サイクリング	-0.4468	0.34354	0.56872
寄与率	33.78%	19.52%	14.36%
累積寄与率	33.78%	53.30%	67.66%

3.2 河川活動の地域性について

各河川空間において、河川活動の地域性の把握を行なった。ここでは、紙面の都合上、広島県代表的な一級河川である太田川水系の放水路（図 - 1）と、支流である古川（図 - 2）について考察を行なっている。両河川における“よく見かける活動”、“ふさわしい活動”の因子分析の結果を表 - 2 ~ 5 に示した。それぞれ3 ~ 4軸に要約され、累積寄与率は60%以上であることから信頼度があると判断された。

“よく見かける活動”において、古川では自然的・親水的な活動を中心にまとまる傾向に対し、放水路では娯楽的な活動が中心となった。“ふさわしい活動”において、古川ではスポーツを中心とする活動が求められ、放水路ではレジャーや娯楽を中心とする活動が求められた。

これより、古川は現状の親水性を踏まえこれを生かす活動をふさわしいと定義していることが理解できた。放水路は、現状の娯楽性に対しより刺激を求める場としての整備が要求された。

4. まとめ

本研究で得られた結果を以下にまとめる。

- 1) 中国地方の河川空間の現状と人々が求める活動が明らかとなった。
- 2) 河川活動の地域性が理解され、特に古川は親水性を生かす活動が求められ、太田川放水路はより娯楽的な活動が要求された。

本研究は緒についたばかりであり、今後住民の声を含む地域性を踏まえた整備指針を確立する予定である。